

# 自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	のしろケアセンターそよ風
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	秋田県能代市落合字古悪土1-228
記入者名 (管理者)	三浦 浩輝
記入日	平成21年7月29日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1 ○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスでの役割を自覚し、その人らしく暮らしつづけるサービスを提供している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されている、毎日の朝礼で唱和され、体感できる取り組みが行われています。職員は意義を理解し、日々の業務に取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に家族会、運営推進委員会を開催し説明している。家族、地域住民と意見交換もでき理解を得ている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4 ○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域から離れている為か、近所との付き合いが乏しい。	○	今後、もっと気軽に付き合えるような関係作りを求め、こちらから足を運んだり行事への招待等の取り組みをしたい。又、隣施設とは災害・緊急時を想定して、強力な強力体制を取ればと思う。
5 ○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	デイサービスの方へボランティアの方が踊りや歌を披露してくれたり、近くに園児や小学生らが交流を図りにきてくれる為、一緒に参加させもらうこともある。グループホーム主体としては行っていない。ただ運営推進委員会に自治会長も参加しており、協力や交流を働きかけてる。	○	自治会長の協力を得ながら、行事等を通し事業所を理解してもらえるよう持って行きたい。

項目	取り組みの事実 3 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域へ貢献できることがないか、具体的に話し合い取り組んでいることは少ない。介護のことや、サービス利用のこと等に対しての相談を承らせも事業所内にはあるものの、外部への認知度は薄い。	○	相談等以外にも何か貢献していけることがないか話し合い、地域への認知度を高めていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価についてミーティングを行い、職員は意義を理解し、利用者と一緒に畑作り、環境整備として草取り、花壇作りと取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長さんより、ご家族様の代表者、市役所の方への評価・取り組み状況の報告をした上で、和やかな雰囲気のもと、今後のサービス向上への話し合いが出来、そうなるよう取り組んでいる。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入所、退去、事故等の情報は流しているが、運営推進会議以外での行政の関わりは薄い。	○	日々の行事、家族会にも参加して頂くように促している。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とする利用者はいない、また管理者、職員の地域権利擁護事業や成年後見制度の理解は薄い。	○	勉強会のプログラムに盛り込み、学ぶ機会を持つ。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・高齢者虐待委員会があり、月1回勉強会を開催している。不参加者には資料を配布し周知している。拘束、虐待は無い。		

項目	取り組みの事実 4 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を読み上げ、利用者・家族の不安や疑問を取り除けるよう質問等に対応し納得した上で契約に至っている。解約に際しても、解約事項に基づき、利用者・家族納得のもと手続きを行っている。又、退去後の利用施設等の情報提供や必要な情報の伝達に心がけている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族皆が馴染みになっており、以前は外出したがこの頃連れて行かないなど面会にいらした家族が聞いて職員に話される。ドライブ、買い物の機会を多くし気分転換を図るなどしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お小遣いは、領収書、出納帳、お手紙では近況報告、受診報告、職員の異動などはそよ風新聞を送付している。重要な事は、電話で報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情や意見を記入し投函できる投函箱を設置している。又、苦情を申し立てる連絡先も掲示している。 家族以外の意見を聞く機会はない。	○	意見箱を設置しているが、意見等がなかなかこないため、アンケートなどを配布し、こちらからの呼びかけをしていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ったり、全体会議、各棟のミーティング、グループホームミーティング等を毎月行って意見交換されており、反映できるよう努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状態の変化時の連絡体制が取られており、必要な時間帯に職員確保が出来る体制になっている。		

項 目	取り組みの事実 5 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ異動は避けるよう努めているが、離職等の場合は利用者が大きく影響を受けないよう、心身ともにケアの強化の配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は毎月スキルアップ研修参加している。ヘルパー資格の無い職員には助成制度を設け、活用し資格取得している。外部研修、勉強会を設け、スキルアップを図っている。	○	法人研修の参加が少ない為、増やして行きたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他拠点施設の会議、勉強会に参加している。グループホーム協議会に参加し、情報交換、研修などに参加し、質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会、新年会など、全事業所での交流会はあるものの、それ以外は特にはない。ただ、グループホーム独自に食事会やレクリエーション活動などを行い、親睦を深めつつストレス軽減に取り組んでいる。	○	職員の休憩室の確保は必要だと思う。職員が居心地良いと感じられる環境づくりに努めて行きたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に、センター長より評価を本社へ上げる機会がある。	○	個々が努力した結果が認められ、一層の向上心を持って働けるような環境を作って行きたい。

項 目	取り組みの事実 6 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>入居申し込みがあれば、利用者事前訪問を行い本人からよく聞き取りを行う、家族にも訪問し聞き取り行っている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>家族に数回会い、訴えを良く聴いて受け止めている。</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>管理者、ケアマネと話す機会を設け、支援の見極め、並びに他サービスの提供等にも努めている。</p>
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>利用するまでは、家族、利用者によく話し合い、当施設の内容と、サービス等を理解していただくから、利用して頂いている。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>茶道、料理、花壇作り、畑作りと得意の分野を利用者から聞いて、共に行い信頼関係を築いている。</p>

項 目	取り組みの事実 7 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とコミュニケーションを密にし、利用者に統一した対応をし、一緒に本人を支えていく関係を築けている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者のわだかまりを解決し、より良い関係が築けるよう支援している。面会時はゆっくり会話を楽しめるような環境を作っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくり会話が楽しめる環境作りをしている。外出し交流もしている。理髪店、美容室、お店、など馴染みの所に行くよう支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業、外出など利用者同士が関わる時間を多く持ち、居室に籠ることのないような環境作りをしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	イベント等に声掛けし、参加を促している。		

項 目	取り組みの事実 8 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向をよく把握し、本人本意に検討し、その人らしい生活が送れるように努めている。	○ 個別ケアを強化していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査、家族からの聞き取り等、情報を収集し、本人を十分把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々を十分観察し、本人のペースで生活できるように支援している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居宅ケアマネ、医療機関、と情報を収集し、家族、本人とよく話し合い介護計画を立てている。また介護チームでミーティングを開催し、意見を聞いて介護計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っているが、本人の状態の変化に応じて、医療機関と相談し、本人、家族、介護チームと話し合い介護計画の変更を行い、新たな介護計画を作成している。	



項 目	取り組みの事実 9 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子、気づき等を記録し、介護チームでミーティングを開催し、情報を共有し介護計画に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望にて、リフト車にて自宅まで送迎したり、事業所内の物を活用し柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	文化会館に民謡や文化祭を見学に行ったり、ボランティアの訪問を受けたりしている。連携医療機関もあり協力しながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じ、居宅ケアマネジャーやサービス事業者と話し合い他サービスを利用するための支援をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の要望に応じて、包括支援センターと協働している。		

項 目	取り組みの事実 10 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、家族、本人の要望があれば、かかりつけ医、かかりつけ歯科医を受診し、適切な医療を受けられるように支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に定期的に受診し、認知症の相談している。利用者は適切な治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している、デイサービスの看護婦に気軽に相談し、健康管理や医療支援を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したときは、毎日、顔出し看護婦に状態を確認し、変化を把握している。また、医師、家族、管理者、ケアマネ、ユニットリーダーと定期的にムンテラも行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの体制はとれていないが、重度化しても、家族、主治医と話し合、出来るだけ住み慣れた所で、本人の意思を尊重しながら介護している。繰り返しの話し合いから方針を共用している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設として「できること・出来ないこと」を家族に十分説明し理解を得ている。主治医とも連携が取れており、重度や終末期の支援に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 11 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	本人、家族とは十分な話し合いを持ち理解して頂 いている。また別のケア関係者とは情報交換を行 い、変化を最小限に抑え、住み替えによるダメー ジを防ぐことに努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応にはプライバシーを損ねないよ うに十分配慮している。個人情報の取り扱いには鍵 のついたキャビネットで保管し、十分注意してい る。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳 の保持」に配慮して行い、自分で決めたり 納得しながら暮らせるように支援をしてい る	自分で決めて納得しながら生活できるように、本 人のわかりやすい言葉や動作で説明し尊厳の保持 に配慮している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	自宅のように、一人ひとりのペースで、自分らし い生活を過ごしている。希望にそった支援をして いる。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	一緒に買い物に行き、本人の好みの洋服などを購 入、おしゃれが出来るように支援している。理髪 店・美容室も本人の望む店に行っている。		

項 目	取り組みの事実 12 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、味付けなどコミュニケーションを取りながら共に行っている。下膳、茶碗拭きと行って頂いている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べたい、おやつ等があれば買い物に出かけ、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄表を活用し、排泄パターンを把握、トイレ誘導にて失禁の軽減、行動やしぐさでの排泄の把握し、「尊厳の保持」に配慮して支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、一人ひとりのタイミングや健康状態に合わせて入浴している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況を把握、その時々疲労感などを観察し、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
<b>昔</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、得意としてたことを家族から聞いたり、なじみのものや道具などを持ち込んだりして、楽しみ、気晴らしの支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 13 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かっているお金の他に、自分でも持ちたい方は管理してもらっている。管理できない利用者には一緒に買い物に出かけ、定額を渡して買い物をして頂き支払いしてもらうなど、お金を所持したり使えるように支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	川、海などがすぐ近くにあるので、外気浴を兼ね散歩に出かける。また、誕生日や希望がある時、各棟で独自で行事やドライブを企画し、出来る限り希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には本人の希望にて、家族、職員と隣の県までドライブ、外食と出かける機会をつくり、支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話の制限はなく、手紙を書いたり、希望があれば電話も使用できる。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、馴染みの人の訪問があり、居室にてゆっくと大切な時間を過ごされている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束・高齢者虐待委員会があり、月1回勉強会を開催している。不参加者には資料を配布し周知している。拘束、虐待は無い。		

項 目	取り組みの事実 14 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関に日中は施錠はしていない、居室にも施錠はしていない。玄関に向かう利用者には常に見守りを行い、鍵をかけないケアに努めている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の行動を見守り、所在や様子を把握し昼夜、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を良く観察し、何が危険か話し合い、危険な物品があれば本人の同意のもとで預かるようにしている。一人ひとりの状態に応じ、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を開催し、知識を得ている。火災訓練も利用者の担当を決め、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救命講習、毎月の勉強会と急変や事故発生時に備え、職員が迅速に応急手当が出来るよう訓練を定期的に行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は出来ているが、災害の対策は自治会長さんへ相談し、協力をもとめている。避難に対してのアドバイスを得ているが、訓練不足であると感じている。	○	具体的な避難場所や手順の周知を徹底し、定期的に訓練をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 15 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの行動、身体状況、精神状況を毎月、家族に報告し、その人らしく、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝礼の申し送り、夕方の申し送りと常にコミュニケーションを密にし、一人ひとりの状態の報告、情報を共有し、対応に結び付けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、処方されている薬の目的や副作用を理解し、一人ひとりを良く観察し、主治医、協力薬局に相談して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防マニュアルを作成し、勉強会を開催し職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、薬に頼らず飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている、助言で出来る方、全介助の方、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を作成し、一人ひとりの一日を通じて確保できる状態を把握し、自立、助言、介助と一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		

項目	取り組みの事実 16 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防委員会があり、毎月勉強会を開催して予防や取り決めを理解し、実行している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	料理器具、食器は毎日消毒を行い、衛生管理に勤めている、食材はその日に内に使い切り、全ての食材に熱を通してから提供、安全な食材の使用と管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を植え、親しみやすく安心して出入りが出来るように工夫している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはいつも季節の花を飾り季節感を取り入れている、廊下から花壇、畑が眺められ日光浴を楽しみながら会話されている、共用の空間は清潔にし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチを置き、利用者同士が会話を楽しんだり、日光浴をしたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		



項 目	取り組みの事実 17 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組 んでい きたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた物を持ち込んで いる、仏壇、写真、花、裁縫道具、ベットなど、 使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地 よく過ごせるような工夫をしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう よう換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎朝、居室掃除には窓を開け換気している、湿度 計、温度計を置き、利用者の状況に応じてこま めに温度調整を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	段差などではなく車椅子の方も自由に散歩をして いる。手すりも設置、身体機能を活かし、安全に、 できるだけ自立した生活を送れるように工夫して いる。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	助言などで、出来る部分は行ってもらい、すぐに 手伝うのではなく、待つ介護を行い、自立して暮 らせるように工夫している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の周りには花壇があり、利用者と一緒に世話 をしている。空き地には畑を作り収穫を楽しんで いる。		



部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・入退院の対応    ・外出による気分転換    ・個々に合った通院介助    ・温泉